



精液が動力の
人型殲滅兵器に拉致されて
足コキで絞られた件

精液が動力の人型殲滅兵器に
拉致されて足コキで絞られた件



俺の名前は冬木北斗、20歳の底辺大学生だ。

前回の話を知らない、
または忘れてしまった人たちに、
主人公として
今までの経緯を説明しよう。

俺はボロアパートの隣の
廃棄物処理場に落ちていたドールを
偶然見つけてしまった。

俺はオタクじゃないんだがドールの彼女に
ひとめ惚れしアパートに持ち帰って、
大人の事情により精液を中出ししてしまったんだ。



すると彼女は動き出して、
俺を『主様』と呼んだ。

「主様……」

彼女の瞳に光が宿り、
確かに口を開いて、
呆然と見ているだけの
俺を主と呼んだのだ。

「主様の
DNAタイプを確認
しました。」

「お待たせです。主様のDNAタイプを確認しました。……貴方はエネルギーで
動くタイプです。……」



彼女の名前はメル。
地球を侵略に来た精液をエネルギーとする
人型殲滅兵器だった！

地球を侵略に来た精液をエネルギーとする
人型殲滅兵器だった！

主役

彼女は、俺と一緒に地球を征服しようとしたんだけど、

俺は大好きなメルを地球のために騙しながら、

それでも精一杯愛することにしたんだ。

アニメーション



メルは地球を征服するために来た兵器です。
生目なんて関係ないです。指の装飾品なんて不要です。
「んなの嬉しいはずがないじゃないですか...?」

そして俺たちの愛は、メルが侵略兵器ってことを乗り越えて、
彼女は地球を守る正義のヒロインになった。嬉しいのです...」





メルが正義のヒロインになって、地球には続々と侵略宇宙人や兵器が現れるようになった。
メルが言うには地球の『免戦期間』が終わったから……だそうで、
惑星が宇宙に生まれてから、侵略してはいけな時間宇宙連盟によって決められており、
それが終わったことによって、
地球は自由に
侵略できるよう
なったのだ。



特に環境守護宇宙人グレイトア星人が、
地球人類に教育が必要だと宇宙連盟で演説したことが
大きな引き金だったとか……聞いたが……
なんとなく触れないほうがよさげな話題だった。

当然正義の味方の出番は増えるわけだが、メルは宇宙でもトップクラスに近い戦闘能力を持っており、しかもエッチするだけで再生してしまえるわけで、最初は祈るような気持ちで、怪獣対メルのテレビ中継を見ていたが、最近ほ負けてしまうよりも別の心配が増えている。



メルは攻撃力は凄まじいが、
防御力は再生だよりで乏しい。

メルは手足がもげようがおっぱいがむき出しになるうが、
お構いなしに嬉々として戦闘する戦闘兵器な側面があり、
その姿が世界中に中継され、四肢欠損にロボ娘にロリに巨乳、世界中のオタクたちを熱狂させていたのだ。



「てめえら俺の嫁にナニ勃起してんだ！」
と俺は目々憤慨、そして勘違いオタクが
寄って」ないか心配なのだ…。

お帰り…メル…
今日も頑張ったね。

メルはいつもボロボロで戻ってくる。
俺はいつもなるべく優しくしながらセックスをする。
メルは兵器であっても女の子で、
俺の大事なお嫁さんなんだから…

はい…
主様の事を
想いながら
頑張りましたよ♡

たまにケンカも
するけど、
俺たちは何も
変わっていない。
お互いを
溺愛してる
ラブラブな
関係を
継続してる。



主様の雄々しくて熱い性器が、
メルの入り口を押し分けて入ってきます♡

メルは時々独特の褒め方をする。
メルにとって最初は俺の事を、
地球を征服する者として惚れ込んだわけで
そういう口調になっている。
でも俺はメルに普通の女の子で居て欲しい…

メルの中は、メルみたいに
優しくて温かいよ。

俺はアホなりに
甘い言葉を
かけて…
メルの中に
性器を
挿入する。

早く

エネルギーを

注入しないと…

あ♡

キキ♡

メロ♡



俺はメルに深く挿入し、膣との相性を確かめるように「息つくど、腰を激しく動かし始める。
俺とメルはお互いしか知らない…でも…
相性は運命的とも言えるほどに素晴らしいうて断言できるほど、

俺はメルを愛してる。

メルの膣は、受け入れるように開いたり、
離さないように吸い付いたり、
キュンキュン反応し続けて、
俺の性器を刺激し続ける…。



俺は、可愛いメルが絶頂に達するのを確かめると、
身体を震わせて、全力で射精する。
メルの吸い付く膣の締め付けを通り抜けるために
性器がより強く脈打って、
メルの膣奥に大量の精液を送り込んだ。



あ♡ん♡
ん♡イキます♡
ま♡マ♡イ♡の♡
あ♡ん♡
ま♡の♡
出♡ま♡す♡
い♡ば♡い♡
ん♡

あ♡ん♡
ま♡た♡
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡

ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ

主様の愛が
いっぱい届きました♡

メルは膣内の精液がエネルギーになって、
メルは再生する。
正義の味方としての役割が増えるメルとは、
愛の営みとしてのセックスよりも、
身体を再生させ
闘うためのエネルギーとしての
セックスが増えていて、
ちよつとだけ不安を覚えている。
でも無邪気で
うれしそうな
メルの笑顔に、
その不安も少しだけ
和らいだ。



愛しい愛しい主様♡

エッチの後は2人でアニメです♡

『姉妹はマジキュア』を観ましょっ♡

メルはアニメが好きだ。

俺はオタクじゃないから普通なんだが、

メルと一緒に見るアニメは楽しい。

ヒーローアニメに目を輝かすメルが、

とても可愛いのだ。

でもその前に…

なあ…メル…

大家さんはテレビとか見ないし

気づいてないみたいだけど、

このボロアパートにも

別の入居者が来るらしいし、

そろそろメルが

正義のヒロインだって

誰かにバレちゃうかも？

しれないし…

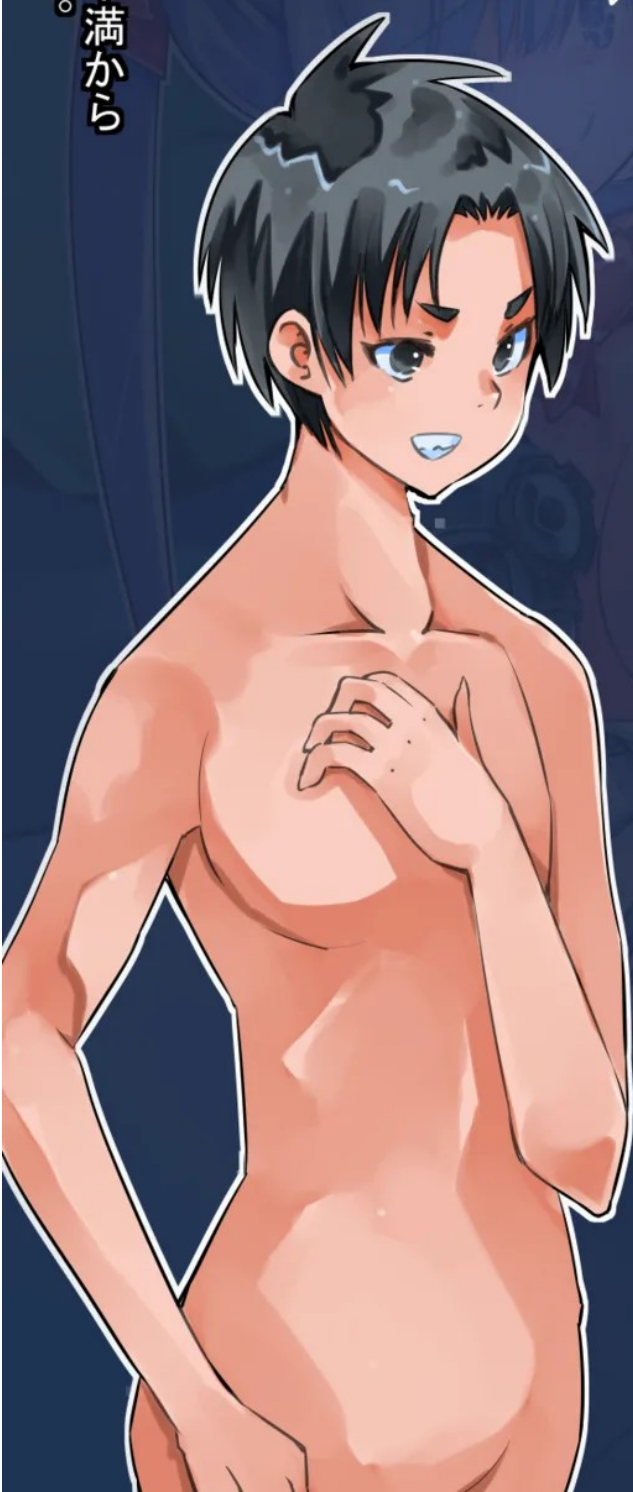
あの…簡単に言っと

おっぱい

出さねえように

聞えないの？マジで

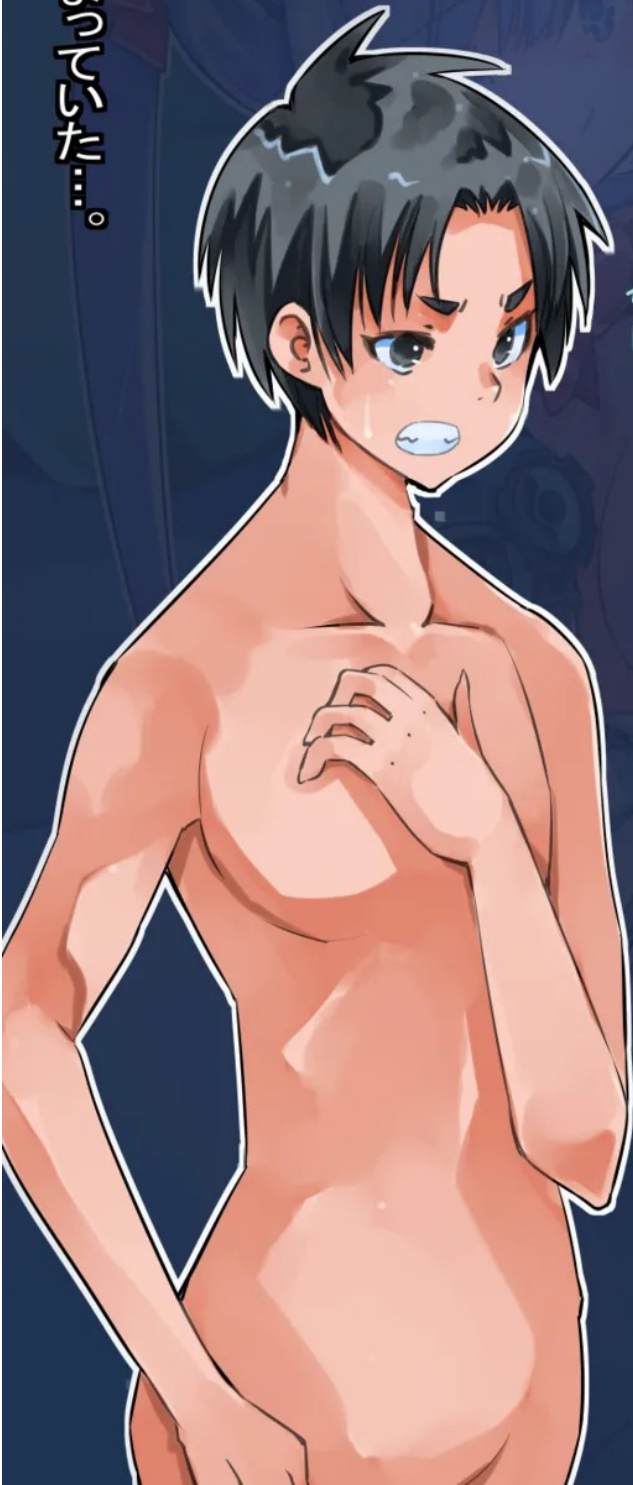
優しく言つつもりが、溜まっていた不満から
ちよい強めの口調になってしまった…。



主様のバカ！
オタクー嫌い！
チンチン以外みんな嫌いです！
メルがわざとおっぱい出して
闘っていると思ってるんですか？
主様以外に見られるなんて
イヤに決まってるじゃないですか？
メルいっぱい傷つきました！
段ボールいっぱい薄い本を廃品に出します！
注文してる萌えDVDを勝手にキャンセルして
ヒーローアニメに変えちゃいます！
主様なんてチンチンしか価値がないんですから
これから精子様と呼びます！嫌い！

いや…
待てよ？ひどくねえ？
明らかにメルの暴言の方が
ひどくねえ？
なら俺だって
メルの事
おっぱいちゃんって
呼んでやる！

はい…俺が悪いです…
まあいつもの…だったんだけど…
俺とメルはこの日ケンカをしてしまっていた…。



ちげえし…

オタクと認めるまで
許しません…



次の日のバイト帰り

俺はメルへのおみやげのシュークリームを買って。

いつもの廃棄物処理場の前の真っ暗な道をアパートの明かりを目指して歩いている。

メルは地球の食事も少しずつ摂れるようになってきている。

精液がエネルギーならと、ミルクを飲めるか試してみたら美味しいって言うてくれて、ミルクから少し進んで、やっとシュークリームを楽しんでくれるようになったのだ。

地球の文化に馴染んでもらうとか色々理由があるけど、一番の理由は、

一緒に毎日を楽しんで過ごしたいって言う。

シンプルな理由だった。

帰って謝らなきゃ……

また地雷を踏まないように、

どんなふうに謝るかを考えていた時、

首筋に電気が走った。

それが何か理解する前に、

俺は少年探偵に

麻酔針を撃たれたように、

意識を失った。



目覚めた時は全裸で、
真っ暗などこかの室内にいた。
馴染んだ感じがする木製の床、
少し鼻につく防虫剤のような匂いがする。
身体は何とも無いようだったが、
両腕は何か金属のようなもので、
拘束されている。
誰がこんなことを？

もしかしたらメル？
ホントに怒らせてしまったのか？
いや…絶対にない…
そう信じてる。
でも逆にメルじゃないとしたらもっとキツイ
メルに敵対する種族？
俺への個人的な恨み？

とりあえず絶対にいいことではないと理解できた。
でもじっと待ってても仕方ない…
動こうかなと思った時…



目の前に犯人が現れたのだ。

お兄ちゃん♡
やっと目覚めたんだね♡
おはよモグモグ…

金髪の小柄なメイド風の少女が立っていた。
口の周りには
クリームが付いており
それはメルへのお土産を
勝手に食べてられている証拠で
俺はその瞬間に敵と認定した。

21点…
ギャルJKが文化祭でメイド喫茶を
しましたってレベルのコスプレ。
足も生足で絶対領域という
基本すら守れていない。
そもそもそのスカートは制服だろ？
立ち方にも品がない。
それでメイドと
名乗っていいわけないだろ？

俺はけしてメイドオタクではないのだが、
目の前の偽メイドでしかない
アホギャルに、言わずにおれなかった…。



モグモグ
ツレがシュークリームね♡
おまあいよ



いきなりなんなの
マジキモい！嫌い！
第一印象最悪！
お兄ちゃんのバカ！

この子は誰なのか？
なぜお兄ちゃんなのか？
色々考えるが
心当たりがなさすぎた。

で？お前誰なんだ？
とりあえずメルの所帰るし
解放してくれ！

は？ヤダ！
無理…絶対無理！
つかお兄ちゃんさあ？
それが21点って思ってる
女の子に対するアレなの？

そう…アホギャルの生足は、
俺の弱い部分を的確に突いてきたのだ。



お見ちゃんさあ？
ルウ処女だけど
知ってるんだからね？

これって好きな女の子に
興奮したとき
カチカチになるんだよねえ？
ホントわルウの「」と
好きなんでしょ？



絶対にルウと名乗るアホギャルは
好みではないのだ！
むしろこういうやつにイジメられてきた
人生だったから嫌いなのだ！

キモい...

ヘンタイ...

しかし

嫌いなタイプのギャルに全裸で拘束され、
見下されながらキモいと罵倒される...
それらが組み合わさった化学反応として...

なぜか勃起した！



わかってるんだからあ
興奮してるんでしょ？
お兄ちゃんのエッチ♡
ルウの身体欲しいんでしょ？

ルウは褐色に光る宝石のような乳房を覗かせて、
俺のちんちんを足でこすりあげてくる…。
ルウの少しプニプニして滑らかな肌感の足が、
無自覚に強弱をつけながら性器に沿って動く…
ヤバイ…気持ちいい…

欲しうい言えは他の事もしてあげるけど？



その必要はない(キリッ)

俺はイケメンボイスでそう言った。
なぜならルウの足は最高で
他の事なんて必要なく…

俺は即射精した！

チンチンをビクビクさせながら精液は
勢いよく噴き出したのだった！

最悪…ズグキモ…早く…



もうお兄ちゃんってば最低！キモメン！嫌い！
ちゃんと「ルウ愛してるよ♡」って
言ってから射精してよね！

♡♡♡♡♡

あん♡でも精液すごいエネルギー…
メルは「こんな独り占めしてたら強いはずだよ…」



ルウはメルを知ってる。
そして精液がエネルギーだってことは、
ルウはメルと同じ人型殲滅兵器で地球への侵略者？
ルウは俺の射精を止めるように亀頭を握りながら
こちらを見つめてる。

ルウ！お前の目的はなんだ？
俺を拉致してメルから引き離してどうするつもりだ！



×2/1

もう！知ってるでしょ？ウザい！
ルウはお兄ちゃんからエネルギーをもらって
地球を侵略するの！
お兄ちゃんは地球の征服王だよ

俺をメルから奪ってメルの動力を止めて倒して
そのまま地球征服……って……とか？



はあ？なんでメルを倒すの？意味不明？
お兄ちゃんもしかしてルウよりアホの子なの？
でも大丈夫だよ？アホでキモくてウザくても
ちゃんと愛してあげるからね？



メルは賢い子だったから、少しずつこっち側に出来たけど
ルウは無理かもしれない…ヤバすぎる…どうしよう？

じゃあお兄ちゃん♡
エッチしよ♡

とりあえず
この腕を解放してくんね？
エッチはしないけど！

なんとなく目的はわかったから、
逃げ出してメルに助けてもらわないと…。

それはルウじゃ外せないの♡
お兄ちゃんが好きって気持ちを含めて
「ルウ愛してるよ」って言うって外れるよ♡

ルウ愛シテルヨ…

外れる気配はない…

ルウちゃんを好きにならなきゃめよ♡
大丈夫♡時間はあるからゆっくりと…ね♡



…時間かけても
俺が愛してるのはメルだけだよ
…つかルウはエネルギー補給したけど
俺は腹減ってるんだけど…。

エへへ♡
ちゃんとお兄ちゃんが寝てる間に
ちよつと遠いけど
コンビニって所に行つて
買つてきたよ！

…ルウ！お前ちゃんと
金払ったんだろうな！
破壊してねえだろうな？

大丈夫だよ♡
ルウはお兄ちゃんの命令じゃなきゃ
誰も攻撃しないもん♡
お兄ちゃんの端末でペイしたもん！

俺の財布を攻撃してんじやねえか！



もうお兄ちゃんってばギモいウザい！
どうして自分で食べれないのさあ！

はい！アーン♡

お前が縛ってるからだ
そしてお前は手を使え

ルウは胸を露出させ

胸の谷間に

パンを

挟んで

差し

出した。



…ゴクリ…
美味そうだ…

はひ♡お見はん♡ひひふふひほ？
（はい♡お見ちゃん♡回移したよ）

これはお腹が減ってるから
仕方がない。
食事をしてるだけ…。
と心の中で言い訳をして
メルへの罪悪感を
ごまかした。

アーン♡

モグ
モグ



お兄ちゃん♡
おいしい?

しゅわ
ちゃん♡

んわ
ちゃん♡

じゅ
わ♡

わ
ちゃん♡

うま

うま...

味はよくわからなかったがとても美味だった...



ねえね？お見ちゃん
この『ウルツドマン』ってアニメ
面白いね？ヤバイ♡

ルウは俺の手が使えないのを
いいことにスマホを
私物化して色々見てる。

それメルも
大好きなやつだぞ

メルは未だにDVDも
うまく扱えないのに、
ルウはコンビニ行って
スマホ払いまでしてる。



ルウは偉いな
ちよつと色々
質問いいかな？

俺は考えを改め始めた。
ルウって子を最初は
ただのアホギャルと
思っていたけど
そんな単純な子じゃ
ないって気づいたから。

エへ♡いいよ
お兄ちゃんルウが
好きになっただんでしょ？



いつになったらお兄ちゃんを自由にするか？
お兄ちゃんがルウを好きになって
エッチしてくれたらすぐ自由にするよ♡

なんで『お兄ちゃん』って呼ぶか？
それはお兄ちゃんだからに
決まってるじゃない！

メルが心配？
とりあえず今は大丈夫と思うよ
お兄ちゃんの精液はすごく濃いからね

ルウとメルの関係？
内緒だよ！
でも今はライバル？
燃える関係だね

メルとどちらが強いつて？
一対一だとメルだね
ルウはいっぱいを
倒すのが得意だし
そう出来てるの♡
可愛さはルウが圧勝♡



お兄ちゃんの事ウザいか好きかどっち？
好きだけどウザい時もあるじゃん？
そう言う時もはつきり言える関係で居たいし
ルウのウザいは『愛してる』と
思っで欲しいな♡

「」はどいふか？
内緒だけど
外に出たらすぐわかるよ
物理的に封鎖してるから
お兄ちゃん出れないけど♡

ちよつと変わつてゐるけど、とても可愛い子だ。
繊細なメルよりも気づかいしないので
接することが出来て友達になれそう…

お見ちゃん
このゲーム
巨乳の女の子しか
限界突破してなくて
ヤバくね？
お見ちゃんオタク？
うわーマジで？
キツモーキモオタ！

いや…マジ無理だな…
方法考えよ…

このおっぱいもヤバいくらい見るよね

アハハ



多分もう日付が変わるくらいの時間だ…。
メルと喧嘩したままだから、凄いい気になってるけど、
一気に疲れが眠気変わってきてる。

なあ…ルウ…

そろそろ寝るんだけど
裸じゃ寒い…

天♡お見ちゃんってば
やっとエッチする気になったんだね♡
もおしやうがないにやあ！

何をどう解釈したらそうなる？

ウザいなあもぉ！恋人だと
『寝る』はエッチの意味で
『寒い』は温めあおうの意味でしょ？
知ってるんだからあ♡

そんな用語まで理解してるのかよ！
やっぱお前の適応力すげえな！
間違えてるけど！



ルウは裸になると俺を押し倒してまたがった。
俺はごつい手枷があるせいで不格好にも
蛙みたいな姿勢で仰向けになってしまった。
その俺の性器をルウは股に挟み込んで
太ももで締め付けるのだった。

いほいあたためてあげる♡

ヘ♡

すぐカチカチになったよ♡
ルウのこと好きなんでしょう？
好きって♡エッチしたいって♡
言ってるよ♡お兄ちゃん♡

ルウは俺の身体の一か所を徹底して
温めてくる。
俺のそこが一瞬で
熱くなったのは
仕方ない事だ。

グニッ
グニッ



ルウは性器を挟んだまま腰を動かす…。
俺の先走った汁とルウの汗ばんだ肌が
湿った音を立てながらこスれる。
ルウは乱暴な子じゃない…
俺の様子を見ながら適度に加減しながら
太ももを気持ちよく締め付けてくる。

ん♡ん♡

お兄ちゃんってばキモカワ系♡
こっやって見てるの好きだよ♡
お兄ちゃん？ねえね♡
そろそろ挿入したくない？

「こ」で寸止めされたら
俺は堕ちる。
メルが好きでも、
「したい」って言う。
でもその心配はない。



ルウ！気持ちいい！
イク！イク！

俺はルウの手の中に思い切り射精する。
ルウはちゃんと
フィニッシュまでしてくれるのだ。

あゝもよ

うざい...
オモ...

今から愛し合うのに、
出しちゃダメじゃん！
お見ちゃんのバカ！

俺はただただ
スッキリして
寝た。



ルウに抱き着かれて眠ると全く寒くはなかった。
もしメルに出会う前にルウに会ってたら俺は好きになってたのかな…とか、
考えているうちに夢に深く深く落ちていった。

夢の中では、メルでいっぱいだった。

笑顔のメル、怒るメル、拗ねるメル、そして

ケンカのあと俺が帰らないで
寂しくて泣いてしまうメル…

早く帰らないと…

愛してるよ…メル…

愛してる…

愛してる…

ズッシリ…ふにふにっ…ギュッ…

たゆんたゆん…



俺の愛してるを遮るようなナゾの擬音で、俺は目を覚ました。

おはよ♥お兄ちゃん
下のお兄ちゃんも
おつきして♥
エツチしよ♥

それしかないと思
っていたが
ルウの巨乳の中で、
俺のちんちんが
潰れそうに
圧迫されていた。

…なぜ？
エツチ？
朝から？
しねえし

俺のダルさと
低いテンションと
正反対に、
ルウは「ニニ」と
とても嬉しそうに、
おっぱいを揺らしていた。

お兄ちゃんってばルウの「と抱きしめながら
いっぱい「愛してる」言ってくれたじゃん♥
ルウもお兄ちゃんを愛してるよー！



メルへの愛してるが寝言になっていたようだった。
いつも生意気なルウが愛してるという言葉ひとつで
「ニ」可愛らしく女の子っぽくなっている
黙っておくことにした。

わ♡

そして
可愛いと思うと
俺の
ちんちんは
素直に
勃起した。

お兄ちゃん？
こんなのルウにちゃんと
入るかな？

ちよつとペロペロしながら
おっぱいで「す」ずってみるんだ！

にゅにゅー！



こうかな？お見ちゃん♡
たゆたゆ♡
お見ちゃん気持ちよそとっ♡

ルウは先っぽに舌を這わして
唾液で性器を濡らしながら
おっぱいを上下にゆする。
視線はこちらに向いて
愛らしい表情を
見せてくる。

エロい…
ずっと
思ってたが、
色黒だけど
艶やかな肌…
輝く金髪…
宝石のような
赤い瞳…
小悪魔なしぐさ…
メルに負けない巨乳…

お見ちゃん？
そろそろハンチーエロエロ
まだするの？

ん？
おっぱい…

たゆたゆ♡

たゆたゆ♡

たゆたゆ♡
たゆたゆ♡

たゆたゆ♡

たゆたゆ♡



やつーらめええーお兄ちゃん
エッチするのに出しちゃらめじゃん！
ウザすぎーもお嫌い！

射精

生意気なギャルには
顔射が似合うなあ
と思いつつ
ブチマケる。
大量の精液を、
不満を
言いながら
受け止めてる
ルウが可愛い…。

可愛い？

メルが好きだから
この子とエッチできないって部分と別に、
俺は可愛いこの子に顔射したい…
苛めてみたい…好き…
そんな心の動きが否定できない大きさに
なってしまうている自分にも気づいてしまった…。



結局エッチはしないまま、
メルを置いて
だらだらと俺たちは
監禁生活を続けていた…

お見ちゃん…
モコモコ動画で
生放送してて…
メルが…メルが…
なんで…?
他の宇宙人から
攻撃されてるの？

俺は涙目のルウが見ている
動画を覗き見た…。



公開処刑カウントダウン生放送

そうタイトルがつけられた動画には、異形の生物たちに囲まれて
身体を拘束されている愛しいメルがそこにあった…。
昨晩は眠れなかったであろう生気のない表情のメルは、
すでに戦意を喪失してしまっているように見える。



地球を守るメルは侵略者たちからすれば
目障りな敵なわけで、
見せしめのために、瞬って殺そうとしているようだった…。
少しづつメルの身体を触手が覆っていく…。
カウントダウン…。
まだ数時間の猶予があるようだが…



行っただって助けられるわけじゃない！
俺は戦闘力ゼロの地球人だ。

ごめんな…メル…
俺に出来ることは
ひとつしかない…
嫌われてもいい
君を守りたい！

ルウ！
愛してるよ！

叫びと共に
俺を拘束していた手枷が外れる…。

パキン
ギャギャ



やん♡

お兄ちゃん！
急にどうしたの？
何するの？
やだよ！

ガブッ



何ってエッチに決まってるだろ？
あんなにしたらがってたじゃないか！
エッチして俺と一緒にになって
メルを助けてもらう！

それわルウのためのエッチじゃない
お姉ちゃんのためのエッチじゃん…
ルウ…お兄ちゃんに…
愛してほしかったのに…
ルウも恋人になりたかったのに…

お姉ちゃん…？



ルウ達姉妹は同じ人を愛して
お仕えして侵略する兵器なの…
だからメルお姉ちゃんがお兄ちゃんを愛したら
ルウもお兄ちゃんからしかエネルギーを受けられないし
お兄ちゃんを愛するしかないの…

でもルウはメルお姉ちゃんの付属品で
お姉ちゃんのために愛されるのだけは
絶対に嫌だった…
だから妹な事を隠して二人きりになって
お姉ちゃんの付属品じゃないルウとして
お兄ちゃんと恋人になりたかったの…

なぜ「お兄ちゃん」だったのか…
なぜ拉致したのか…
幼稚とも言える誘惑をしたのか…
全ての謎が解けていった…



言っとくけど！

最初ルウを見た時大嫌いだったよ！

見た目も好みじゃねえしガサツだし！

でも仲良くなっていったら

めっちゃくちゃ可愛いとこあるじゃねえか！

もしメルに会う前に会ってたらとか、

もうちょっとおしとやかだったらとか考えた！

結論は、メルと出会った後で

ガサツなルウ！

今のままでもお前が大好きだ！

お兄ちゃん…

ルウも大好きい…



お兄ちゃん♡
愛してる♡
ルウを受け取って♡

機能停止のその日まで
ルウはお兄ちゃんと一緒だよ♡



行くよ…ルウ…
ずっと一緒だから…

ルウの性器に、
自分の性器を
押しあてる。
そこは湿り気を
帯びている。

ん♡

今はルウだけの事を
想おう…

そう誓うと、

甘えたように手を伸ばすルウに、

抱き着いてキスをして、

そのままルウの深く奥に入り込んだ…。

グブ…
ヌヌ

ヌヌ



お兄ちゃんが入ってくるの♡
ルウの申が満たされていくの♡

ルウの小さな性器が、
俺の性器に
吸い付いて奥へと
飲み込んでいく。

お兄ちゃん♡

お兄ちゃん♡

お兄ちゃん♡

繋がりが合うと俺もルウも、
お互いへの密着度が増していき、
甘えて求めあうように、
身体をすりよせあい、
それに合わせるように性器を前後に動かしていく。



じゅわん♡

じゅわん♡

お見ちゃん！
らめっ！激しくて♡
ルウ…苦しいっ♡

ルウの膣は小さくて、
キュンキュン締め付けるから、
凄い圧がかかり、それに逆らいながら
強引に腰を振ると、
ルウは苦しそうな喘ぎを漏らす。



射精

絶頂で痙攣するルウの膣内に
俺はルウへ溜め込んでいた愛情を込めて
大量の精液をぶちまけた…。

ん♡
あ♡
スゴイ♡
イク♡
イク♡

ビュッ
ビュッ
ヤン♡
あ♡

お尻♡
ビュッ
あ♡
ビュッ
ビュッ
あ♡
ビュッ
ビュッ
あ♡
ビュッ
ビュッ
あ♡



エネルギーチャージ完了！
メルお姉ちゃん救助に出撃！
お兄ちゃんはお留守番！

ルウは戦闘形態にシフトすると
外に飛び出した。
どういう仕組みかわからないが、
ルウもメルも空を飛べるのだ。



お兄ちゃんってば最低ヤリチン！
キモオタ変態！
バカバカ！大っ嫌い！

さっきまで甘えたな感じだったのに、
いつの間にか平常運転のルウだった…。

ホントはお兄ちゃんってば
メルお姉ちゃんのほうが好きなの
気づいてるんだからね！
ルウは浮気なの知ってるんだから！
女の子の気持ちちを弄んで！



今回は言い訳しようがないほど
正論なので何の反論もできなかった…。
俺の中でルウは好きだけど、
メルの方が好きでメルのために
ルウを抱いたという事実
はウソでも否定できなかったのだ。

でも絶対いつか
「ルウの方が好き」って
言わせてやるんだから！
大好きだよ！
お兄ちゃん！
いつてきますす！



いつもの小悪魔な笑顔で
そう言い終えると、
ルウは光のような速さで、
飛んで行った。

アラ？冬木君？
お隣さんともう裸のお付き合い？
メルちゃん泣いちゃうわよ？

大家さん？
なんで「JJJJ」？

気づけばそばに大家さんが居る。
ルウがお隣さん？
そう…ルウはボロアパートの新しい入居者で、
俺は隣室に監禁されていたのだった。

ルウちゃん可愛いもんね？
カリスマ店員さんで、読者モデルで、
人気者だしね。
でも浮気はだめよ？

多分メルと同時期に地球に来たルウだが、
すでにバイトを始めて収入と住所を得て
読モまでこなす

社交性を発揮していたのだ。

未だに戦闘以外でアパートの敷地から
出ることもない引きこもりがちのメルとは
正反対なのだった。

お姉さんショックだよ



ルウちゃん！
無事だったんだね！

当たり前じゃん！
メルお姉ちゃん♡



俺が部屋に戻り生放送を見た時には、
すでにルウはあらかたの敵を
倒し終えていた。
メルは攻撃が点なら、
ルウの攻撃は面で範囲を焼く
密集し油断した敵を焼くのは、
ルウにとって簡単な仕事だった。



俺は2人の
仲睦まじい抱擁を見ると
助かったんだと…
やっと一息ついた…。

今日はエネルギーはいりません！
見ての通りダメージなんてないんですから！
主様の顔も見たくありません！嫌いです！

当然と言えば当然なんだが、
帰宅するとメルは激怒している。
俺はケンカして帰らなかったどころか、
妹に手を出していたクズ男としか、
メルには認識できないだろう。

嫌いでも何でもいいから
エネルギーだけは
供給させてくれ！
土下座でも何でもするから！

誤解は後からでも解けるのだ。
今はメルが受けた損傷を精液で癒すのが先だ。

ヒソヒソ…お兄ちゃん…
終わったらルウにも頂戴ね。
戦闘って結構消耗するんだ♡
さっきみたいにいっぱいラブラブしようね♡

小悪魔なルウはわざと聞こえるように、
そう言っていると自室に帰って行った…。



甘えたなメルは顔を合わせてするのが好きで
後ろからのエッチは大嫌いなのだ。
なのに顔も見たくないという態度で
背中を向けて寝転んだのだが、
しっかりと視線は「こちらを睨みつけている。」

「ごめん…メル…
言い訳はたくさんあるけど…
謝ることもいっぱいある…」



こんなときでも大好きなメルは裸を見ると
勃起してしまうもので、
性器をメルは膝に押し当てる。

主様が嫌いです。
今日はおちんちんも嫌いです。
好きなのは精液だけです。
早く出してください。

ごめん…メル…ケンカして
帰らなかったんじゃないかと
ルウに拉致されてたんだ…

メルはずっと
こちらを睨んでいる。

ルウから聞いています。
早く出てくたさい…。



挿入すると普段よりトロトロなおまんこで、
待ちきれないくらいだったメルが可愛い…。

今日は怒ってるんですから、
絶対おちんちんなんかには負けません！

ごめん…メル…ルウとは…
メルを助けたくて…それで…

わかってます！

私達姉妹は

主様の精液がないと

動けないし

ルウちゃんとするのも

納得してますし！

んっ♡

主様が居なくて不安で
うまく戦えなかったし
ルウちゃんには助けられました。

ハハハ♡

じゅっ♡
んっ♡

じゅっ♡
んっ♡

んっ♡



やつ♡主様♡
我慢してるの♡
そんなあ…♡はげし…♡
らめですう♡

我慢するな！メル！
愛してる！
つかなんで怒ってるんだよ！

仕方ない事だし
怒る理由ないのに…
わかってるの…

らめ♡
♡やん♡
♡あ♡
♡やん♡
♡やん♡



いっぱいかまっちゃんして
大好きって甘えたいです♡

はあ♡気持ちよかったです♡
主様大好きです♡

3回ほどセックスをして、
俺とメルはラブラブしつつか、
余韻を楽しんでいる…。

主様は、ルウちゃんのことが
気に入りましたか？

ルウは楽しい子
なんかわがままで
うるさくて
甘えんぼの妹みたい

胡麻化しても
仕方がないと思って
本音で答える。

良かった♡メルも楽しいルウちゃんが大好き♡
ルウちゃん地球に来るまでもずっとしゃべってるんです。
交戦中に離れ離れになって心配してたんですけど…
意外に近くに居ました♡



でもメルが
俺のお嫁さん

姉妹で同じ人に仕えて抱かれる。
そう言う風に造られた
兵器だとしても、
メルの中に芽生えている
女の子の気持ちを感じて
優しく頭を撫でた…。

はい♡
主様が旦那様
メルがお嫁さん
ルウちゃんも妹…
それから…
あと3人♡

ちよつ…待って？
3人？ナニ？



私達5人姉妹で
5人小隊です♡
メルは次女で
ルウちゃんは四女です。
みんなに精液♡
宜しく
お願いしますね♡

メルだけでも
ほぼ毎日ヤッてたのに
それを5人…
俺死ぬんじゃないか…？
せめて聞き分けのいい子たち
だいたいなど
希望的観測を試みたが、
多分そうじゃない予感がしていた。
まあ…

次回に続くって事で…
今回は割とハッピーエンドだ！

